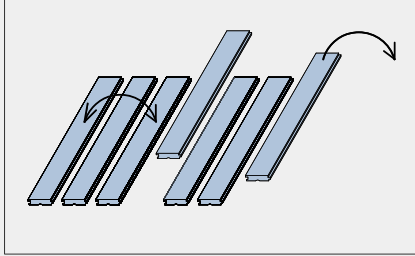


施工法

【施工の前に…】

●天然木のため一枚ごとに色調や木柄に大きなバラツキがあります。施工前に仮並べをするなどして全体のバランスを確認しながら施工してください。木材の性質上、スジのような縞模様(トラ目)が混在します。極端なものは端部や目立たないところに施工していただくなどして天然資源の有効活用にご協力ください。

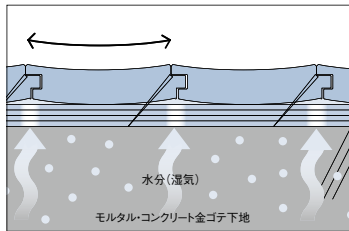


【下地のチェック】

●床下地は十分な強度があり、湿気や不陸がないようにしてください。天然木フローリングは水分の影響を受けやすい素材です。金ゴテ仕上げのモルタル・コンクリート下地の含水率は必ず10%未満としてください。特に1階部分の床下地含水率は細心の注意が必要です。含水率が高い場合は工事を延期するなどして、下地合板やフローリングに対し湿気対策を十分に行なってから施工してください。

天然木フローリングに見られる不具合例

モルタル・コンクリート下地の水分が多い場合には、下地合板とフローリングの裏面の含水率がだんだんと高くなり、結果、フローリングが反りあがる原因となります。



※イラストは合板下地の例です。

【注意事項】

- フローリングに養生テープなどの粘着テープを直接貼り付けしないでください。粘着テープをはがす際にフローリング表面にダメージを与える可能性があります。
- 施工後は水濡れやキズ等を防ぐためにも、清掃後養生シートなどで24時間以上の養生を確保し、歩行制限してください。

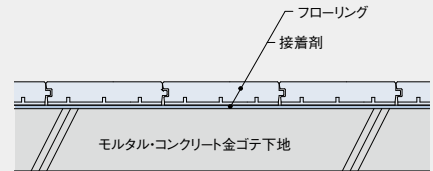
エルヴィフローリングー直張り接着工法

1. 割付・墨出し

フローリングを施工する前に、必ず基準となる墨出しを部屋の中心で行ない、張り方向や割付を確認してください。基準墨から平行移動して張り始め位置を決め施工を開始します。端部はフローリングの板幅が1/2以上(小巾にならない)になるようにしてください。

2. 接着剤塗布・張り込み

- ① 接着剤はクシ目ゴテを使用し、下地全面に塗布してください。1回の塗布量は30分以内に施工できる範囲としてください。
- ② 季節・空調環境等の違いにより、天然木フローリングは膨張・収縮を繰り返します。凹凸サネをきつく締め付けないようにして施工してください。施工時の季節的な要因による伸縮を考慮して張り込んでください。



- ③ 壁際には必ず7mm程度の隙間を設けてください。最後に幅木を施工して完了となります。

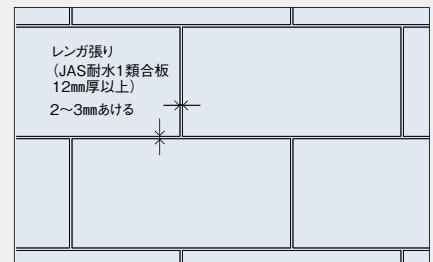
【推奨品】

(株) オーシカ セレクティブEP-72F(エポキシ樹脂系)

ナチュラルフローリングーノリ釘併用工法(合板下地)

1. 下地合板の張り込み

下地合板は厚さ12mm以上のJAS耐水1類合板(JAS F☆☆☆☆)をレンガ張りで施工してください。合板は突き付けにせず、縦横共に2~3mmの隙間を確保してください。コンクリート釘だけでなく、ウレタン系やエポキシ系接着剤を必ず併用してください。合板下を根太(45mm角以上)や大引材(90mm角以上)で組む場合には、プレーナー処理された反りやねじれのない乾燥材を使用してください。



2. 割付・墨出し

フローリングを施工する前に、必ず基準となる墨出しを部屋の中心で行ない、張り方向や割付を確認してください。基準墨から平行移動して張り始め位置を決め施工を開始します。端部はフローリングの板幅が1/2以上(小巾にならない)になるようにしてください。

3. 接着剤の塗布・張り込み

- ① 接着剤はフローリングの裏面に30mm間隔でピード状に塗布してください。
- ② フローリング張り付け後、フロアステーブル(木床用)またはフロア釘を凸サネの上部から45度の角度で下地合板に打ち込みます。釘頭がある場合には必ずボンチなどで再度打ち込んでください。釘止めピッチは標準303mm以内とします。

※ナチュラルフローリング(一部)は乱尺ですのでフローリングの長さによりピッチを調整してください。

- ③ 季節・空調環境等の違いにより、天然木フローリングは膨張・収縮を繰り返します。凹凸サネをきつく締め付けないようにして施工してください。施工時の季節的な要因による伸縮を考慮して張り込んでください。

- ④ 壁際には必ず7mm程度の隙間を設けてください。最後に幅木を施工して完了となります。

【推奨品】

(株) オーシカ セレクティブUR-20・UR-21(ウレタン樹脂系)

